

教科	課題（現状、傾向、課題分析）	改善プラン（改善のための具体策や取組）	成果(○)と課題(△)
国語	<ul style="list-style-type: none"> 文と文のつながりに気を付けて文章を構成したり、事実と感想、意見などを区別して文章を書いたりすることを苦手とする児童がいる。 文章から必要な情報を取捨選択したり、全体像をつかんだりする力を高める必要がある。 動詞にかかる修飾語や主語述語を正しくとらえることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な教科や活動で、「情報ノート」を活用し、事実と感想、意見を区別して書く活動を取り入れる。 文章を読み取った後に、ペアや小グループで、感想を交流する時間を確保する。場面や段落ごとに区切るのではなく、全体がつかめるように、キーワードや短い言葉で全体を把握できるような授業展開を行う。 文法についての学習を、けやきタイム等を利用し、定期的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○書く活動に慣れ、自分の考えの根拠を明確にもつことができる児童が増えた。 △事実と意見の区別は十分ではなく、課題の提示や教材を工夫していく必要がある。 ○物語文の山場や主題を捉えたり、説明文の構造を捉えたりすることで、叙述に着目して読むことができた。 △けやきタイムで定期的に文法の学習を行なった。語彙を増やし、短作文を書く学習を取り入れ、定着できるようにする。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 複数の資料の中から適切な情報を読み取ることに課題がある。 区市町村や都道府県、世界の大陸や海洋と我が国の国土との位置関係を理解していない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 地図帳や各種資料を活用し、課題に対応した情報を選択した理由を説明する活動を取り入れる。 調べる場所だけでなく、その周囲にも目を向けさせ、位置関係をつかめるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○課題に応じた調べ学習を通して、適切な情報を選択できる児童が増えた。 △グラフの変遷と根拠や事実を結び付けて考えられるよう、複数の情報を提示していく必要がある。 △けやきタイム等を活用して、繰り返し課題に取り組む時間を設定する。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 立式の根拠や、問題の解決方法を説明する活動を苦手とする児童がいる。 自分とは異なる考えを理解することや、その考えを用いて問題を解くことができない児童が多い。 小数のかけ算、わり算では、商や余りの小数点の位置を間違えて誤答となることが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えが説明できるよう、図、式、言葉などを用いた多様な表現方法を指導する。 「どうして」「なぜ」と児童の思考の根拠を問う発問を行う。 様々な考えのよさを理解できるよう、その考えに対応した適用問題を準備する。 答えの見積もりをしてから計算に取り組むことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○既習内容を活用し、自分の考えを説明できる児童が増えた。 ○様々な考えの中から、適切な方法を選択できるようになった。 △題意を捉え、正確に演算決定することに課題が残る。学期末の時間を活用し、加減乗除混合の問題に取り組む必要がある。 ○答えの見通しを確認してから問題に取り組むことで、誤答が減少した。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決の過程が、まだ身に付いていない児童がいる。 目的意識をもたずに実験に臨んでいる児童がいる。そのために、実験から何が分かるのか、理解できていないことがある。 実験器具を正しく使えない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題、仮説、方法、結果の予想、実験、結果、考察、結論のカードを使い、板書を構成する。 実験の目的を明確にできるよう、仮説を確認し、それを確かめるための実験方法を考えるように促す。 実験に必要な器具を考え、選べるようにする。また、実験前に、器具の正しい使い方を説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的に問題解決ができるよう、実験方法を自分たちで考えたことで、目的をもって実験に臨むことができた。 △考察を通して実験で分かったことを整理することは十分でない。めあてを再確認し、実験結果から分かったことを一般化できるように支援する。

家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・実習では、初めての活動に慣れない児童が多い。 ・衣食住に関する様々な用語を、実感を伴って理解することが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・操作方法や実習手順を図や動画で提示する。学び合えるような班の構成にする。 ・制作や調理などで体験したことを説明したり、表現したり、話し合ったりする等の学習活動を充実する。 ・生活と結び付けて学習できるように、家庭と連携しながら学習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○友達との学び合いを通して、技能が身に付いた児童が多かった。 ○家庭科ノートを活用し、家庭でインタビューを行ったことで、各家庭の工夫や違いを実感することができた。 △包丁さばきや、手縫い・ミシン縫いの技能は個人差がある。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の課題をつかめていない児童がいる。 ・自分の課題を解決するためのめあてを立てたり、方法を工夫したりすることが苦手な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数グループの編成を工夫する。めあてを伝えて運動を互いに見合ったり、教え合ったりする活動をどの単元でも取り入れる。 ・ICT機器を活用し、自分の動きを運動後に振り返ることができるようにする。 ・体育ノートを活用し、児童一人一人が自分のめあてやそれに対する振り返りを書くことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自然に対話が生まれる場面が見られた。 ○勝敗を受け入れ、次の活動に意欲的に取り組もうとする児童が増えた。 △ICT機器を活用することで、運動量が減った。提示の仕方や与え方の工夫が必要である。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の出す声を考えながら発声する児童が増え、頭声発声の感覚をつかんでいる児童が増えた。半面、声を出すことが恥ずかしい児童もいる。 ・リコーダーの運指がスムーズな児童とサミングがうまくいかず、練習が進まない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアやグループ活動でお互い励まし合いながら楽しく活動をする場を多く持つ。 ・個に応じた練習方法をいくつか用意し、自分でレベルを選んで練習をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○一人一人の能力に応じた曲に編曲し、表現の日では、しおみ学級を含め全員が自信を持って演奏をすることができた。 △自分の練習は一生懸命できるが、お互い教え合いながら学習を深めることができない児童が多かった。
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・自力解決ができない。自分の感覚を通して形や色などを捉えることができない。 ・既習事項を生かして表現できていない。 ・自身の作品や活動に満足していない。自分たちの作品や身近な材料などを楽しく見る視点がもてない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が主体的に授業に参加できる導入の工夫。体験的な学びから自分のイメージがもてるようにする。 ・表したいものに応じて経験した技法を選択できるようにする。 ・自分や友達によさに気付くよう教師が言葉かけを行う。鑑賞活動の設定。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の感覚を通して形や色などをとらえるように意識させる導入や、技法を選択する場面を多く設定することで主体的に活動できる児童が多く見られた。 ○鑑賞の活動では、形や色をもとに自分の考えを述べられるよう造形的な視点を設定した。その結果、感じたことと形や色を合わせて考えられる児童の姿が見られた。